

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信越自然郷“ふるさと”プロジェクト
事業主体 (連絡先)	信越9市町村広域観光連携会議 0269-62-3111 (飯山市役所)
事業区分	(6) ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,384,309円 (うち支援金: 1,846,000円)

事業内容

信越自然郷の素晴らしいアウトドアフィールドや文化的資源を地域内外に広く情報発信、国・県も積極的に進める「自転車活用推進」の取り組みを強化することでエリア内の周遊観光につなげるため、以下の事業を実施した。

- ①フックとなるメインコンテンツのブラッシュアップ
→E-BIKEの導入とレンタサイクルネットワークの構築
- ②統一感のある情報発信による、周遊観光の強力な推進
→拠点の複数化を狙ったデジタルサイネージの整備



【E-BIKEで地域を巡る】

【目標・ねらい】

- ① 自転車をフックとした信越自然郷およびそのアウトドア環境の認知拡大
- ② エリア内周遊を促し観光消費額の増加



事業効果

- ① アクティビティセンターを中心に、エリア内複数のサイクルステーションにて E-BIKE のレンタルを実施した。プロモーションという点では一定の効果が得られたが、レンタル数は伸び悩んだ。
- ② すでに配備(飯山駅)済みであった飯山市を除く8市町村に設置。通常は各市町村の情報発信が中心となるが、他市町村のコンテンツを配信することで新たな感覚で情報発信に取り組める環境が整った。

今後の取り組み

E-BIKE 先進国であるヨーロッパに比べ、日本においてはその活用方法はもとより、そもそもサイクルスポーツに対しての意識がまだまだ低い状況にあると感じる。アクティビティセンターweb サイト、今回導入のデジタルサイネージなどを活用し、エン트리ユーザーに届く情報発信を展開していきたい。

※自己評価【 B 】

【理由】

業界最注目コンテンツである E-BIKE を導入したことにより、地域内外で話題を提供することはできたが、レンタル数は伸び悩んだ。サイクルスポーツを気軽に楽しんでもらえるよう、エン트리ユーザーに届く情報発信を強化していく必要がある。

デジタルサイネージについては設置施設職員からの反応もよく、今後も積極的かつ効率的に活用していきたい。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある